

防災まちづくりと 女性のリーダーシップ



～女性の声を地域の力に～

地域の意思決定の場に女性が参画し
平時からリーダーシップを発揮することは
誰もが暮らしやすいまちづくりにつながります。
平時にできないことは非常時にできない。
だからこそ、平時の今、できることを。

地域版女性リーダー育成プログラム

「決める・動く」

10年間で224名が修了

学び合いで視野が広がる

自分の強みを知り自信に

意見や思いを人に伝える

リーダーの概念が変わった

東日本大震災から15年。仙台市と財団が取り組んできた女性リーダーの育成や防災まちづくりへの女性の参画を促進する事業を紹介します。

仙台市・公益財団法人せんだい男女共同参画財団

地域版女性リーダー育成プログラム「決める・動く」

地域に活動の場を持つ女性たちが、自分らしいリーダーシップを発揮するための人材育成事業です。10年間で224名が修了し、それぞれの現場で活躍しています。

「仙台防災枠組に関する自発的な取り組み“Sendai Framework Voluntary Commitments (SFVC)”」として、国連に承認されています。

VOLUNTARY COMMITMENTS
SENDAI FRAMEWORK
FOR DISASTER RISK REDUCTION 2015-2030

プログラムの特長

町内会やNPO、民生委員児童委員協議会、PTA、市民グループなど地域に活動の現場を持つ女性が対象です。半年間にわたる研修を通して自分らしいリーダーシップを磨き、防災まちづくりに向けて力を発揮することをめざします。多くが所属団体からの推薦を得て参加しています。

1 自分を理解し自信を持って意見を発信

自分が持っている力への理解を深め、自信を持って意見を発信するトレーニングを積み重ねます。修了式のスピーチでは、それぞれのリーダーシップを自分の言葉で語れるようになります。

2 マネジメントの視点を磨く

多彩な講師による講義や、地域に根ざして活動する女性リーダーの経験談から、話し合いの場づくり、リーダーとしてのあり方やコミュニケーション、他団体との連携など、地域の課題解決や組織の目標達成に必要な視点を磨きます。

3 実践トレーニングと受講者同士の学び合い

講座の学びを現場で実践し、受講者同士で共有します。同じ志と多様なバックグラウンドを持つ女性同士の学び合いにより、モチベーションが高まり、活動の幅が広がります。

Q & A

Q なぜ女性だけのプログラム？

A 男性が意思決定の場を占める組織で、女性が発言することは容易ではなく、女性自身が男性に発言を譲ることもあります。所属現場とは異なる女性同士のコミュニティで意見を言うトレーニングを重ね、現場でも発言できる自信が身に付きます。

Q 所属団体からの推薦はあった方がよい？

A 推薦がある人を優先して受け付けています。受講者は個人の学びを地域での活動に生かすことができ、推薦団体にとって受講者の活躍は、組織力の強化や担い手の育成につながります。推薦がない場合も、「学びを実践する活動現場」がある人を優先しています。

プログラムができるまで

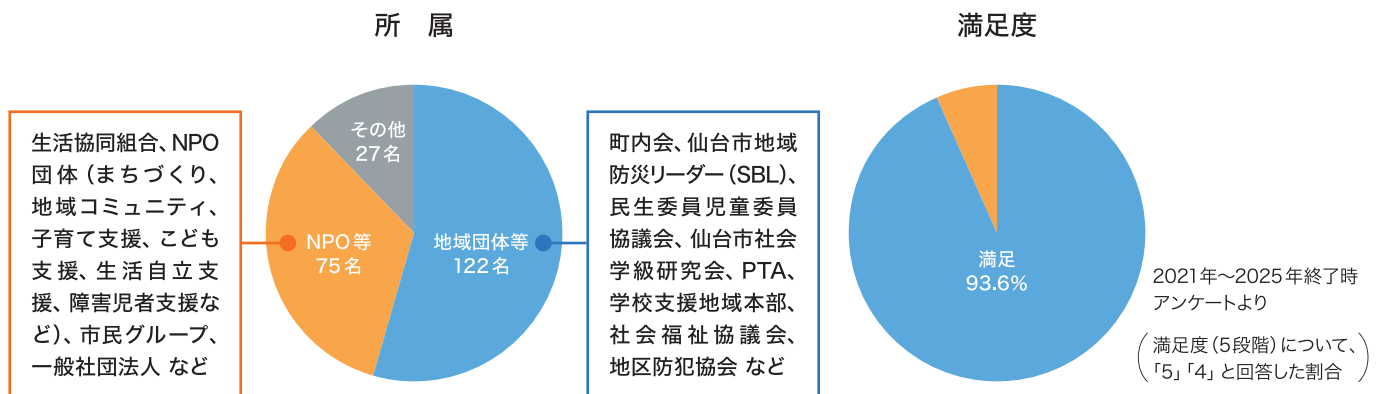
東日本大震災では、避難所運営などの災害対応や復興の過程で女性が声を上げるのが難しい状況や、十分にリーダーシップを発揮できない場面がありました。一方で、地域のために何ができるかを考え、仲間と動き出していた多くの女性たちにも出会いました。

2015年の第3回国連防災世界会議で採択された「仙台防災枠組2015-2030」に盛り込まれたのが、防災・減災の「推進主体」である女性のリーダーシップ促進の重要性です。普段できないことは災害のような非常時にはなおのことでできません。日頃から女性たちがリーダーシップを発揮するためのプログラムが必要と考え、その翌年、「決める・動く」を開始しました。

プログラム内容(例) ※2025年度全11日間実施

- ネットワークをつくる
 - 自分の「強み」を活かす
 - 話し合う力
 - 人を巻き込むコミュニケーション
 - フィールドワーク
 - まちづくりコーディネーターの役割
 - スピーチトレーニング(原稿を練る/話し方、見せ方/実践とフィードバック)
 - 同期のネットワークの話し合い
 - 受講者スピーチ・修了式
- ・ リーダーに聞く①②、語り部バス(石巻市・南三陸町) ・ 修了者の活動現場訪問(青葉区荒巻地区)
- ◆ ほか、「決める・動く」修了者との交流会を実施

多様なフィールドで活動する女性224名(20代~80代)が修了 ※2016年~2025年



受講者の声

- ・ リーダーは遠い存在だと感じていましたが、「自分らしさ」「強み」「私にできること」が少しずつ見えてきて、リーダーは誰もがなれると実感しました。
- ・ その場で考えたことを人前で話せるようになり、分厚い壁を突破できました。
- ・ 課題に取り組むと確実に手応えがあり、地域での話し合いも少しずつ進んでいます。
- ・ 多世代で学び合う楽しさ、地域の多様な活動、女性の力強さを発見しました。



推薦者の声

- ・ 送り出した受講者は他の地域の取り組みを持ち帰ってきたり、イベントを企画したりと、これまで以上に積極的に町内会活動に関わっています。
- ・ 修了式のスピーチから、地域をよりよくしたいという強い決意が伝わってきました。



同期のネットワーク

修了後も近況報告を兼ねた定期的な語り合いの開催や、男女共同参画推進せんだいフォーラムへの企画参加のほか、修了者が実施するイベントなどに講師や運営スタッフといった形で協力し合うなど、エンパワーメントし合う関係が続いています。

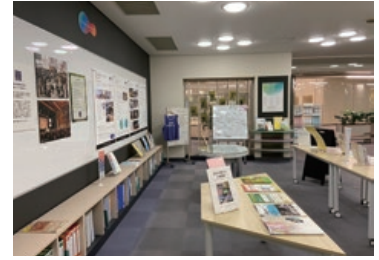
修了者の活躍

- ・ 町内会や民生委員児童委員協議会、仙台市社会学級研究会など所属する団体のリーダーや役員、自治体の審議会委員や議員に
- ・ 世界防災フォーラムや仙台防災未来フォーラム、せんだい女性リーダーフォーラムへの登壇、防災関連イベントでの事例発表やファシリテーション
- ・ 仙台市への政策提言プロジェクトへの参加(「女性たちの政策提言」2019年)



女性と防災コーナー

第3回国連防災世界会議でエル・パーク仙台が「女性と防災」テーマ館となった実績を活かし、防災まちづくりにおける女性のリーダーシップ促進につながる展示やイベントを展開しています。東日本大震災の経験を語り継ぐものや、災害が女性に与える影響、防災・減災に関する全国の資料なども集めています。



こんな資料があります

- ・国連防災世界会議や仙台防災枠組2015-2030に関する資料
- ・世界防災フォーラムリーフレット
- ・東日本大震災や能登半島地震の被災女性に関する調査報告書
- ・仙台市の震災記録誌や地域防災計画
- ・県内外の市民グループが作成した冊子 ほか

利用時間

■ 平日 9:00~21:00 ■ 土曜・日曜・祝休日 9:00~18:30

所在地・問い合わせ

仙台市男女共同参画推進センター エル・パーク仙台 管理事業課 事業係
〒980-8555 仙台市青葉区一番町4-11-1 141ビル（仙台三越定禅寺通り館）5階 市民活動スペース内
TEL 022-268-8301 FAX 022-268-8316

ミニイベント

仙台防災枠組2015-2030に明記された女性のリーダーシップ促進と、防災まちづくりにおいて女性が活躍できる地域づくりの推進を目的に、定期的にイベントを開催しています。

「決める・動く」修了者が地域での自身の活動を紹介したり、地域に根ざした防災・減災活動に取り組む市民グループが企画を実施したりするなど、多様な女性リーダーの姿を発信する機会になっています。



これまでのテーマ

- ・みんなで話そう 災害への備え
- ・能登半島地震の話を聞く
- ・テーブルトーク ～町内会編／SBL（仙台市地域防災リーダー）編／防災アイテム編
- ・作ろう災害食 話そう防災のこと ほか



動画
「防災まちづくりと
女性のリーダーシップ」



X
「女性と
防災まちづくり」



web
「女性と
防災まちづくり」



公益財団法人せんだい男女共同参画財団
仙台市男女共同参画推進センター エル・パーク仙台

〒980-8555 仙台市青葉区一番町4-11-1 141ビル（仙台三越定禅寺通り館）5階・6階
TEL 022-268-8300 FAX 022-268-8304